

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術会議有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成 24 年 5 月 24 日（木）10:00～11:00
- 場 所 合同庁舎 4 号館第 3 特別会議室
- 出席者 園田大臣政務官、相澤議員、奥村議員、今榮議員、白石議員、青木議員、中鉢議員、倉持統括官、中野審議官、吉川審議官、大石審議官

○ 議事概要

議題 1. 国家戦略としての科学技術イノベーション政策について（その 1）～戦略協議会等の検討状況をもとに～

- 相澤議員 本日の議題は「国家戦略としての科学技術イノベーション政策について」ということで、これはこのタイトルでしばらくいろいろなところにスポットを当てながらこの会合で議論を続けさせていただきたいという意図のものでございます。

本日はその 1 つとして、先日から開催されております戦略協議会、それから部会等の検討状況をまずご報告いただいて、その内容に基づいて全体の進め方等についてここでご意見の交換をしていただければというふうに思います。

<内閣府 中川参事官から説明>

- 相澤議員 まず今説明いただいた「国家戦略としての科学技術イノベーション政策の推進について」は、会議のスケジュール的な面も重要なのですが、その会議で何をしようとしているのかということとを明確にするためにこういうような位置づけにしております。ですから、戦略協議会、今スタートしたわけですが、戦略協議会はあくまでも科学技術イノベーションを戦略的に進めるためのいろいろなご議論をいただいて、そして戦略としてまとめていただくことであります。

ただ、当面その戦略を一番効果的に発揮できる部分というのは、7 月末に予定されております本会議決定いたします資源配分方針であります。その中に何をを入れていくかということが直近に求められていることであります。そこに目標を定め、スケジュールもそれに合わせているというところでもあります。

それから、次回開催される本会議では、人材育成の関係を中心に本会議の場でも議論し、そして先般まとめていただいた有識者ペーパー、それから新たに国家戦略会議に提出する工程表、こういうようなものを本会議の近辺で全体を進めるところでございます。ですから、資源配分方針とそれから人材育成関係がこの 2 カ月、あるいは 3 カ月の重要なタスクとして考えていただければと思います。

そこで、このような全体感を持っていただいて、戦略協議会、基礎研究・人材育成部会、科学技術外交タスクフォースの進捗状況が資料としてはまとめられたものがございます。それを基に出席された有識者議員の方々から一言ずつコメントをいただいて、全体の進め方、提起された問題点を議論して、これからの進めるところに反映させたいというふうに考えております。

5 月 18 日には戦略協議会が 2 つ重なっておりました。そこで、まずこれについてということで、「基盤－1」という資料、「復興・再生戦略協議会の検討状況」についての報告がまとめられています。これについては、まず事務局のほうから全体を説明していただいて、それから一言議員からと思います。

<内閣府 加藤参事官から説明>

○奥村議員 各メンバーのご発言をご覧になってお気づきのよう、この課題についてそれぞれの方々が見えている風景が違うことが第一点。所属されている組織も違いますし、活動されている仕事、従事されている対象もそれぞれ違いますしということで、ある意味では極めて多様ですし、ある意味では方向性を絞ることがなかなか難しい構成になっているわけです。

私が申し上げたことが、やや正確に書かれていないのですが、やはり復興・再生チームという捉え方がある意味では従来にない、科学技術をベースにした活動の捉え方としては従来にない捉え方なので、ある意味ではこれまでに先進的なモデルもないと思います、他の国にも。何よりも重要なことは、この多様性の中でさまざまな意見があるのですけれども、研究開発を具現化するという、つまり白日夢に終わらせないコミットメントをとろうということが最も重要なことであるということとは申し上げております。

もう一つは、時間軸等、それから対象が極めて広いので、目の前の復旧作業というのはもう目の前に来ている方もいらっしゃいますし、将来のイノベーションという形で捉えている方もいらっしゃいますし、また地域によっても対処策が大きく異なるということもあって、そういう中でどういうモデルをつくっていくかということが極めて難しくもあるのですが、チャレンジングな課題としてみんなで知恵を出していただきたいとお願いをしております。

それから、これらの施策は実現する上で必要なのは科学技術の成果だけでは具現化しないと。つまり、通常のほかの行政施策と一体化して初めて形になるものがほとんどである。そのことが復興協議会の進める上での大きなバックグラウンドとして認識しておく必要があるのではないかと、改めてこの構成員のメンバーのご発言を聞いて感じております。

○相澤議員 それでは、グリーンイノベーション関係をお願いします。

<内閣府 村上参事官から説明>

○相澤議員 グリーンイノベーション戦略協議会には私が出席しておりましたので、少し補足いたします。ただいま村上参事官がまとめていただいたのは、大変全体がまとまっている形で説明いただきました。こういう形で進められれば大変いいというようなところをむしろ示してもらったのではないかと思います。実際の会議の場では、第1回ということもあり、多様な意見がいろいろな角度から出されました。これはこれで大変重要なことだと思います。

グリーンイノベーションは明確なる政策課題を掲げて推進中でもあるので、次回以降はさらに具体的なところについての議論が進むものと思われま。

今回多様なメンバーに加わっていただきましたので、イノベーションについての考え方にまだばらつきがあるのではないかというふうに思います。ですから、そのところを本当に戦略を策定するということに向けていく、このことがこの戦略協議会としては大変重要であろうというふうに思います。

議事のまとめのところにはあらわれていないのですけれども、特に「その他」という部類のところ、発言内容が整理されていますが、全体の理解が相当違うのだなという印象がありました。そこでここはかなり整理された形でまとめられているので、その状態があらわではないのですけれども、このあたりが今後進めていくところに重要なところではなからうかと思ひます。

○青木議員 相澤議員が今ご指摘になった「その他」のところに「経済学者などに入ってもらって検

討していかないとわからない」と書いてあって、たまたま私経済学者なので目が行ったのですが、確かに代替エネルギーの普及まで考えると、今節電などで話題になっているように価格づけとか、そういうのが大事になってくると思うのですが、そういうところまで議論するのか、または別の場で議論をして、ここは専らどういう科学技術がありますか、という話ということになる。このインプリメンテーションの方法は議論しないということなのではないでしょうか。

○相澤議員 いえ、そうではございませんで、政策課題をまずどういうポイントで整理するか。政策課題をまず設定いたします。今年度の予算関係には政策課題が設定されていますが、それを見直すというところがあるわけです。そのときにどういう社会像を実現するかというときに、科学技術だけを推進するのでは、その実現はおぼつかないわけです。ですから、当然その中で経済的な面、それからシステム等の検討が入ります。ただ、それを予算の裏づけとしてはどういうところで施策展開するかという話のときに、これは資源配分方針に反映させるのを切り分けていくということはある程度得ることだとは思いますが。重要なことはこの戦略協議会で全部指摘していただかないといけないと思っておりますので、経済的観点からの議論も十分に行われる必要があろうかと思っております。

次は、基礎研究及び人材育成部会です。

<内閣府 廣田参事官から説明>

○青木議員 1回目、個人的には大変よい滑り出しだったなと思っています。事務局もデータを豊富に準備してくださったのと、民間の方とか大学の方とかそれぞれの立場から意見を述べてくださったのですけれども、責任のなすり合いというよりは、こういう問題があって、ここから我々はこういう解決ができるのではないかと非常に前向きで、皆さん、とにかく人材が日本にとって重要であるという共通認識が強く前に出て、大変よい会議になりそうだと思います。

○相澤議員 科学技術外交戦略タスクフォースは白石議員から直接ご説明いただけますでしょうか。

○白石議員 まだ1回目を開催したばかりでして、他の戦略協議会等も同じだと思いますけれども、基本的に何をタスクフォースでやるべきかということについて、とりあえず7月までは、スケジュール的にはもっと短いのですけれども、6月まではアクションプランとの関係で個別施策として提案したいものは提案しよう。

それからもう一つ、もう少し長期の話として、私としては、イーストアジアサミットを念頭に置いておりますけれども、仕込みというか、弾込めというか、そういう首脳外交を念頭に置いて科学技術外交ということで何か官邸に提案できないかと。この大きく2つをいわばこのタスクフォースの任務ということでお願いいたしました。

先ほども申しましたけれども、まだ特にはっきりしたアイデアは出てきておりませんが、1つ、私としてきちんと考えなければいけないと思っておりますのは、個別施策として考えたときに、実は科学技術外交というカテゴリーに入ってくるような個別施策、これは海外での共同研究であるとか、あるいは海外の研究者との国際会議とか、そういう話になるわけですがけれども、実際にはそれ以外の個別施策の中に海外の研究者との共同研究のようなものがかかなり重要なコンポーネントとして入っているものがいっぱいあるわけですね。そういうものについてはデータも整理されていなければ、およそ資源がどういうふうに分けられているかも実のところよくわからないと。そのところ、何かかなりラフなアイデアでも、数字でもいいですけども、これをつかむというのが非常に重要なことではないのかなというのが第1回目の会議のときでの私の実は率直な感想でござ

います。

それ以外に委員の先生方からは、それぞれの領域で非常に重要な問題提起はなされておまして、特に1つは安全保障関係の技術との関係をどう考えるのかということもございまして、この辺はなかなか微妙な問題もありますので、まだ私としての考えはまとめておりませんが、遅くとも第3回目ぐらいまでの考え、会議までにはある程度整理していきたいと考えております。

○相澤議員 今科学技術外交という枠の中におさまっていないで、いろいろなところに分散して進められている科学技術外交、これが膨大なものになるわけです。例えば、2国間協定で進められている科学技術協力、これはほとんどこの対象ではないかと思えます。

そういうような意味で、特に科学技術協定が成り立っているところは少なくとも総括する必要があるのではないかと私も常々感じておりました。ぜひ進めていただければと思います。

それでは、ただいまご報告いただいた全体を見ていただいて、これから戦略協議会、部会、タスクフォースは、当面資源配分方針にどう反映するかということに焦点を絞って進めていただけることになろうかと思えます。

そこで、このそれぞれの進め方についてご意見出していただければと思います。

○奥村議員 1つ提案させていただきたい。ここの場でこれから各協議会の検討状況を報告していただくというのは、これは結構だと思うのですが、ただ、今日第1回目の報告を拝見しても、基本的に議論の進め方が3期計画と同じであるということです。当面何をやろうか、が検討主題になっている。4期計画は課題解決型と言っており、施策、プロジェクトなどでPDCAを回すということを経験のように言っているのですが、実務の上でビルトインされていない。具体的には、ある課題に取り組むときに、例えば産学連携、府省連携が大事です、というのは必ず出てくるのですが、企画立案、予算要求時には何をお互いにコミットしているのか、はっきりしない。ドゥーの段階では何を各府省、あるいは産学官が相互にコミットすることをもって府省連携、産学官連携と言うのかと、このあたりが極めてあいまいなまま3期計画は過ぎてしまったわけです。

復興・再生の場合には先ほど申し上げましたように、基本的に研究開発成果はほかの行政施策と合体しないと地元においていけない、という基本的な課題があるわけです。従って省内部局間の連携が必要です。そういう技術開発の展開のフェーズに応じてどういう関連施策全体の推進方法を行うか、その推進方法をどう資源配分に反映させるかということをししないと3期計画の推進と同じになるわけです。ですから、むしろ4期計画をつくった我々このメンバーでは、課題解決型という4期計画の特徴を前面に出すような運営の方法を検討し、各戦略協議会にフィードバックすることが必要ではないか。それをしませんが、私は3期計画と同じようになるのではないかと感じましたので、ぜひご検討をお願いしたい。

○相澤議員 私も全く同感でございまして、先ほど戦略協議会でのグリーンイノベーションの注意点もそのところが徹底していないということで、私はそこを強調したのですが、それぞれのところでそういうようなところにぶつかっているのではないかと思えます。これは今後の進め方として極めて重要な点だと思えますので、改めて今日確認して、今後の運営に反映させたいと思えます。

○中鉢議員 今の件ですが、4期をベースにこういう活動が動いていると思えます。国民的な視点から言いますと、戦略協議会の位置づけの問題もありますが、まだまだよく見えていないので、こういうことを明示的に見せていくことが大事です。4期では、従来と取り組みが変わったなということを見せていかなければいけない部分も持ち合わせていると思えます。

課題解決型ということを行ったことに対して、どのようなアプローチをしているかということを中心に説明していく必要があるのではないかと思います。そうでなければ、総合科学技術会議があって、専調があって、さらに戦略協議会を設置して、ここに予算のための弾出しを委ねてとなりますと、レイヤーを増やして、メンバーをかえただけで、やっていることは同じではないかという印象を与えたら、これは失敗だと思います。したがって、戦略協議会に期待することは何かをきちんと出して、それがどう本会議とリンクしていくのかということを開明に透明性を持って見せていくということが、3期までの進め方と違ってくるのではないかと思います。

何も変わらないではないかという声の間もなく外から出てくると思います、おそらく。進捗が遅いとか船頭多くして何もいないではないかといったような指摘が出てきたときに、4期では進め方から違うのだよと、しかも、課題解決なのだよという説明ができるようにしておくべきです。

例えば復興・再生戦略会議では、私は出席しなかったので正確なことはわかりませんが、第1回ということもあって、いろいろな立場で関心事を言っていると思います。例えば、安全にコンサーン持っている人、あるいは経済にコンサーン持っている人、あるいは文化にコンサーンを持っている人、あるいは心、健康の問題にコンサーンを持っている人たちがいると思います。ここでの整理の仕方については、そういう見方もあると思いますが、きちんと安全面の課題、科学技術のイノベーションを必要とする安全に対する課題は何なのだというをはっきりさせて、この課題に対してイノベーションを提供していくという会議の進め方を見せていく必要があると思います。

○相澤議員 ただいまの点は、具体的には戦略協議会の進め方のところに今のような姿勢を明確に示して、そして議論していくということですね。

○中鉢議員 そう思います。戦略協議会にそれぞれの立場の委員のコンサーンではなくて課題を挙げてくれと。課題があるはずで。課題については、イノベーションを伴う解決をしていくのだよという整理の仕方を事務局や座長の方に行っていただきたいと思っています。今までのような個人的な意見を差し込んで予算措置をしていくというようなことをやっていると、3期と同じではないかという誤解をされかねないのではないかと危惧いたします。

○相澤議員 この点は事務局含めて、十分に意識を共有していただきたいというふうに思います。戦略協議会の運営については、事務局もかなり注意深くかつ慎重にやっておられるのです。それはなぜかという、戦略協議会というのは総合科学技術会議の本体と少し距離を置いて中立性をというようなことが当初議論されたので、余り具体的などころまでをという遠慮に近いところがあったかと思いますが、しかし、戦略協議会の本来のミッションは今中鉢議員が言われたところにあるので、それを果たせるように具体的などころは明確にしていくということではないかと思っています。

これは多様な意見を整理するというのではなく、多様な意見をいかに我々が目指している政策課題を実現するために活用するかということだというふうに考えますので、ぜひ運営の上でもそのことが徹底するようにしていただければと思います。

それでは、これから本格的に戦略協議会、部会、タスクフォースが推進されます。この大臣・有識者会合でもこういう形で報告しつつ、かつ全体としてどう進めることが適切かということの議論もさせていただきます。

○園田政務官 今日もまた皆さん方からさまざまなご指摘いただきまして、また方向性も含めて整理していただいたのだと思っています。

先ほど奥村議員からもご指摘いただきましたけれども、要は当面のという言い方が確かに今まで

の繰り返しの様な印象を与えてしまっているというのは私も本意ではないと思っています。したがって、おっしゃるように第4期が課題解決達成をしっかりと実行していくのだといったところを私どもの最大のミッションだと思っておりますので、必ずそこにつなげていく。そして、その中で要は一つ一つ、先ほど最初に当面の予定ということで整理させていただいておりますけれども、この資源配分方針も当然ながら、それを実行させるために必要なスケジュールであるというのをご認識いただければなと思っておりますので、「当面」というのが何か課題解決達成の実行の先送りといったような印象を与えてしまっているということであるならば、それは私も明確にこれは違うと、さらには、もし事務方も含めてそういった意識があるならば、それはきちんと正していかなければいけないと思っています。このスケジュールの中における今年度の取り組みは必ず実行させるところの戦略協議会、あるいは部会、タスクフォース並びにさまざまな総合科学技術会議としての取り組みというものは、そこに向かっていっているのだというところは、今日改めて私は意識を共有させていただいたかなと思っておりますので、そういう面での当面の予定という形はさせていただければというふうに思います。

いずれにしても、本当に相澤議員を中心にこの有識者議員の皆さん方にさまざまな観点でご指導いただいているわけですので、当然私ども政務三役も含めて、皆さん方と意識は共有させていただいております。私も先般グリーン戦略協議会には出席させていただきました。若手の研究者の中の議論としてはいろいろな研究があつて、それがまだまだ埋もれているというある種若手の人材の中でのフラストレーションのような話もございました。そういう面では、あのような場を通じて、私は大変期待を申し上げて最後にごあいさつを申し上げたのですけれども、若手の研究者の方々、あるいはいろいろな分野の中で埋もれている、そういう研究の中身があると。そういったところもどんどん出してほしいと。そして、産官学間のいわば一体となった推進のエンジンという位置づけの中で、さまざまな形でそういうところも積極的に取り入れていただけるような場面が出てくれば、私はこの戦略協議会が大変成功なうちに進めていけるのではないかと期待を申し上げた次第でございます。ぜひそういう形をそれぞれの会議の場では皆さん方にもどんどん出していただきたいと思っております。

(以上)